



UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.185
2025.1.25

発行：浜松ユネスコ協会
発行人：会長 安藤隆敏
h_unesco_koho@yahoo.co.jp
編集(広報委員会)阿部行俊

第15回 未来遺産「私のまちのたからもの」展 大切にしたい 残していきたい 私のふるさと

浜松市長賞

「『の組』の屋台」

殿村 桃花さん 浜松市立八幡中学校3年



「浜松の伝統的な浜松餃子」

牧野 愛さん 浜松市立相生小学校5年



<左:殿村 桃花さん 右:牧野 愛さん>

<受賞者代表 挨拶より> 殿村 桃花さん

私にとって「浜松まつり」は小さい頃から参加している大好きなおまつりです。私の住む野口町は、昔から浜松まつりに参加している歴史ある町です。そんな町を私は誇りに思っています。

町の屋台は三代目で、その屋台が去年60周年を迎えました。野口町の屋台は「彫の屋台」と呼ばれるほど多くの「彫り物」で飾られています。この作品では、その「彫り物」を描くのに力を入れました。「彫り物」の立体感を出すために明暗をはっきり描きました。

今回「野口町」の屋台を描いたことで、私は「私のまち」や「浜松」にさらに魅力を感じることができました。これからも描くことを通して「私のまち」をもっと好きになっていきたいと思ひます。(要旨抜粋)

第15回 未来遺産「私のまちのたからもの」 作品展

令和6年12月11日(水)～16日(月) 於：遠鉄百貨店ギャラリーロゼ

100年後に守り伝えたい地域の文化や自然

浜松市・湖西市の小学校4年生から中学3年生までの児童生徒の皆さんから362点の応募がありました。子供たちの視点だからこそ発見できる「まちのたからもの」です。



第15回 未来遺産「私のまちのたからもの」 表彰式

12月15日(日) 於：浜松科学館

<主催者挨拶>

「ふるさとを知ることが 平和を大切する心へ」

浜松ユネスコ協会会長 安藤隆敏 氏

いくつかの活動の内、「私のまちのたからもの展」につきましては、地域の魅力に目を向け、長い歴史と伝統のもとで豊かに培われた地域の文化・自然遺産を伝えるための活動としています。ふるさとのよさを知ることが平和を大切に作る心につながるからです。

しかし、現実は大変に厳しいものがあります。2011年の東日本大震災からまだ復興を遂げていない中、熊本地震、そして、能登半島地震がありました。また、異常気象による豪雨、土砂崩れなど、自然の力によって命が奪われたり、ふるさとの破壊が起きたりしています。自然の力の前では、なすすべがないといった感じですが、粘り強く、ふるさとを復興していく動きが期待されます。

人間による行為が、ふるさとの破壊につながることもあります。ウクライナ、さらに、中東のガザやシリアでも、毎日多くの人々の命が奪われ、傷つけられ、ふるさと自体が壊されています。これは、人間によるものなので防ぐことはできるはずですが、日本においても、一層、「平和」について考えていきたいと思います。



受賞者の皆さん、100年後にも遺したい地域の「未来遺産」というとらえ方で、今後も、さらに多くの「たからもの」を見つけていってください。皆さんの心をさらに豊かに、そして、強くしてくれます。 (要旨抜粋)

内科・消化器科

西脇 医院 院長 西脇雅子

中央区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育/地域唯一の女子教育/新しい課題探究型学習

入学相談は随時受け付けております。

パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

<来賓挨拶>

「守って 伝えていくためには 何をしたらいいの か」

浜松市長代理 副市長 山名 裕 氏

みなさんが生活の中で心が揺り動いたものが「たからもの」となっているのでしょうか。次の世代に広く伝えていきたいという思いを込めた多くの作品の応募があり、感謝いたします。たからものを見つけた経緯や描いたときの工夫などのコメントと合わせて、100年後に残したい「町並み、景勝地、名産品、自然環境など」が表現されていました。大変興味深く鑑賞しました。地域の素晴らしい景観や自然遺産、文化をたからものとして、「どのようにしたら守っていけるのか。」「そのためには何をしていけばいいのか。」この機会に考えることで後世に受け継いでいってほしいと思います。

(要旨抜粋)



「地域愛を育み グローカル人材の育成を」

浜松市教育長 宮崎 正 氏

みなさんが書いたコメントや絵をじっくりと見ました。それぞれの思いが伝わってきました。改めて浜松と湖西の地には誇れるものがたくさんあるのだと感じさせてくれました。何気ない原風景がその地域の歴史であったり、家族をはじめとする人の温かさであったりします。みなさんが、「この作品展に参加してよかった。良い機会だった。」と感じてくれると私たちはうれしく思います。

浜松市では来年からはじめる教育の計画を作っています。その中にグローバル人材の育成という内容があります。「グローバル」は、グローバルとローカルを合わせた言葉です。

地域の自然や文化、歴史を尊重して地域愛を育む、この「たからもの展」を通して、浜松や湖西のことをよく知ってもらい、このまちを好きになり、将来、この地域で活躍できる人になってほしいと思います。

(要旨抜粋)



<審査講評> 柴本峰明 氏

この作品展の作品は小さいサイズです。小さいからこそ誤魔化しがききません。作品を見るとき、どこが良いか探る間もなく全てが視界に入ります。作者の思いがパッと伝わり、入ってくるのです。

(以下、主な受賞作品について優れている点を説明)



2024年度 「私のまちのたからもの」 受賞者

賞	学校名	氏名	題材名
浜松市長賞	浜松市立八幡中学校	殿村 桃花	「の組」の屋台
浜松市長賞	浜松市立相生小学校	牧野 愛	浜松の伝統的な浜松餃子
静岡県教育長賞	浜松市立麓玉中学校	天野由佳子	色褪せない
静岡県教育長賞	浜松市立泉小学校	森下 結可	桜色にそまる浜松城

浜松市教育長賞	浜松市立北部中学校	國枝 聖	幻想的な藤の花
浜松市教育長賞	浜松市立篠原小学校	漆畑 花	しょう乳石のシャンデリア
学校賞	浜松市立八幡中学校	(校長) 山口 俊二	
学校賞	浜松市立泉小学校	(校長) 中谷 哲久	
浜松商工会議所会頭賞	浜松市立佐鳴台中学校	神谷 敬子	放課後に集合ね!
浜松商工会議所会頭賞	浜松市立篠原小学校	山下 晏寿	さ鳴湖花火
浜松ユネスコ協会会長賞	浜松市立八幡中学校	大津 花笑	中田島砂丘
浜松ユネスコ協会会長賞	浜松市立萩丘小学校	深谷歩由奈	自然がいっぱい四ツ池公園
静岡新聞社・静岡放送賞	浜松市立八幡中学校	吉川 明希	八幡神社
静岡新聞社・静岡放送賞	浜松市立芳川北小学校	張 黛萱	鳥居
中日新聞東海本社賞	浜松市立八幡中学校	山口 紗依	大天狗面
中日新聞東海本社賞	浜松市立泉小学校	高橋 すず	夕やけ色の弁天島

(敬称略)

※全受賞作品は、浜松ユネスコ協会 HP にて御覧ください。

<https://www.unesco.or.jp/hamamatsu/>

第4回 科学教室 「身の回りの化学」

～ 体験と知識が結び付く楽しさ ～

9月7日(土) 於：浜松科学館

化学は身の回りのどんなところにも存在し、生活を豊かにしてくれています。一方で、化学と言われてもピンとこない、学校の授業で覚えることやよく分からない記号ばかり、といったイメージを持つ人が多いのではないのでしょうか。



今回、電池の実験で目に見えない電子の存在を確かめたり、酸性洗剤にもものを入れたときの

変化を反応式と関係させたり、身の回りにあるものを使って化学の実験をしました。子供たちは、いつも見ている洗剤や油が特別なもののように感じたのではないのでしょうか。目を輝かせながら、身の回りにあるものが様々に変化する様子に、「すごい」「知らなかった」と呟いていました。

このように体験と知識が結び付いたとき、ただの記号としてではなく、生き生きとした知識として子供たちの心に残っていくのだと思います。勉強する楽しさは、どこにでも潜んでいるのだと思います。

昨今、地震や台風など、災害が心配されることが多いです。災害時に、今回体験した33円電池を思い出し、その特徴を研究、改良していたことで、「身の回りの材料を使って緊急時に明かりをつけることができた。」などということがあられるかもしれません。化学を上手に使い、実際に生活を豊かにし

ていけることを目指し、今回の体験がその第一歩となったら幸いです。

子供たちの、身の回りから楽しさを見つけたい、もっと探求したい、そんな心を刺激することができたなら、うれしい限りです。(松永千広)



第5回 科学教室

「天竜川と岩石」 ～岩石から 壮大な大地の成り立ちへ～

10月12日(土) 於：天竜川河川敷 (二俣町)

採集する岩石は10種類です。中でも頁岩（けつがん）、チャート、花崗岩が特徴を捉えやすいようで、どの子も比較的早く見付けます。



頁岩は、黒く平らで、標本箱にちょうど入る大きさのものが拾えます。頁（ページ）

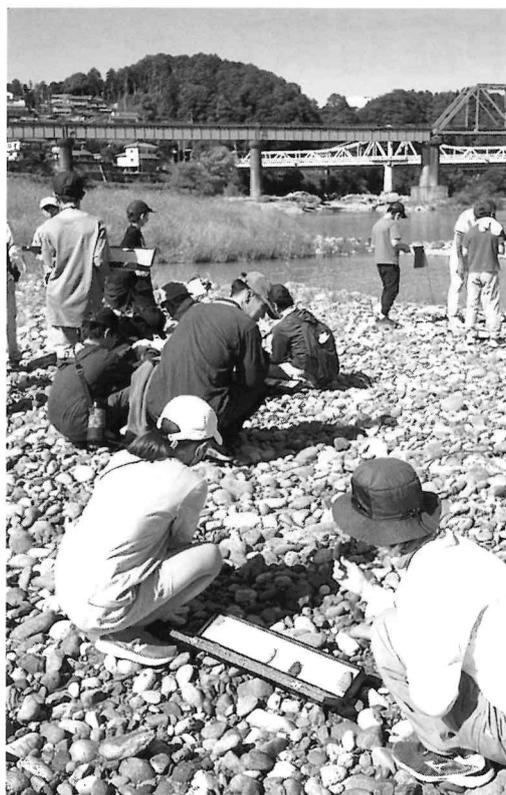
をめくるように割れること、粒が砂より細かいことから、この岩石が陸地から離れた海底で時間をかけて降り積もってできたことが推測できます。

チャートは、赤石山脈の辺りから流されてきたものが多く、地名通りの赤い色でまず見当をつけることができます。海底で放射虫や珪藻などの遺骸が堆積してできた岩石ですが、南アルプスまで押し上げられていることに自然のダイナミズムを感じます。

花崗岩は、2014年に噴火した御嶽山など中央アルプスから佐久間にかけての辺りから転がってきたものです。マグマがゆっくり冷えて固まった岩石で、全体的に白っぽく鉱物の結晶が分かりやすい岩石です。研磨した面が美しく、みかげ石ともよばれ建築や墓石などに使われます。

小さな岩石から壮大な大地の成り立ちに思いを巡らせることは岩石採集の面白さの一つです。

（竹内孝夫）



第6回 科学教室

「秋の自然観察」

11月2日(土) 於：佐鳴湖公園

悪天候が予想され、安全のために中止となりました。

ISO9001/14001 [品質/環境]・ISO27001 [情報セキュリティ] 認証取得

 **中部印刷株式会社**

本社・工場 TEL:053-441-2431(代) FAX:053-441-7612

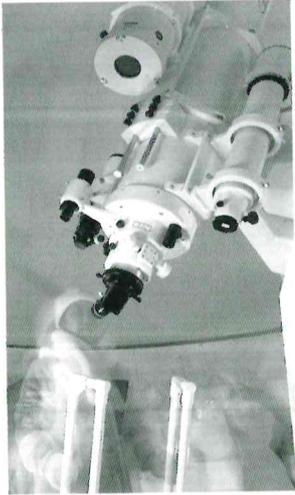
<https://www.chu-bu.co.jp/>

第7回 科学教室 「宇宙への挑戦」

～ 本物を自分の目でみる価値と感動 ～

12月21・28日(土) 於：浜松市天文台

前半はスライドを見ながら、惑星、星の明るさや色、星の一生、星座などについての知識を深め、観望時の視点を明確にしたり、観望への興味を高めたりしました。地球の成り立ちの説明では、現在の地球大気は、科学教室で学んできた「微生物、身の回りの化学、岩石」と深く関連していることに触れ、科学のつながりにも気付けたと思います。



後半は、21・28日の両日

とも天候に恵まれ、予定していた天体の観望ができました。

前半のプレゼンテーションにより、望遠鏡を使っても僅かな明るさでしか認識できない天体に対しても、科学的価値や意味を理解することができました。天体からの光を自分の目で直接確認できたことで、科学的な視点での観察だけでなく、美しさや不思議、驚きなどとともに大きな感動にもつながりました。この感動が、将来、科学を学び追究したいという原動力へと育ってほしいと願います。

(阿部行俊)

第2回 親子公園探検隊 (真夏の自然in佐鳴湖公園)

～ 安全第一！ 万全の熱中症対策で ～

7月20日(土) 於：佐鳴湖公園



17家族45人が参加した親子公園探検隊。全国各地で猛暑日を記録する中、参加者の安全を最優先に考え、熱中症対策を徹底しました。熱中症計や塩タブレット、水分補給用のジュースを配布し、給水タイムを取り入れ、万が一の時に備えて氷や冷やしたタオルを準備するなど、万全の対策に努め

ました。活動中もできるだけ日陰を歩くなど、注意を払い、無事に活動を終えることができ安堵しています。

活動の中では、グループで生き物探しを行った際、子供たちが夢中になって、楽しみながらたくさん昆虫や植物を発見していたのが印象的でした。クワカミキリやアオバハゴロモ、羽化直後のアブラゼミ、ツマグロヒョウモンなど、思わぬ発見があり、参加者も大喜びでした。安全に配慮しながらも、子供たちの目線を大切に活動計画が良かったと感じました。



連日の猛暑で心配もしましたが、みんなが安心して楽しむことができるよう、スタッフがきめ細かく準備や配慮したことが、子どもたちの笑顔につながったと強く感じました。(袴田正義)

第3回 親子公園探検隊

(秋の自然in佐鳴湖公園)

～自然のおもしろさをいっぱい見つけたよ～

11月9日(土) 於：佐鳴湖公園

「親子で発見 秋の自然」をテーマに、18家族50人の参加者と佐鳴湖公園を探索しました。

最初の活動は、全員でシリブカガシのどんぐり拾いです。数分のうちに手のひらいっぱいになりました。シリブカガシの実は磨くとぴかぴかと光ってきれいになります。実の表面がロウ物質で覆われているからです。前年の9～10月に開花してできた小さなどんぐりが、今年の春から夏になって大きくなり、この秋に成熟しました。

藤棚の近くの若木のエノキ(食餌植物)でアカボシゴマダラの幼虫を見つけました。頭に2本の角状突起を持っています。背中突起は4対ありますが、3番目の突起が大きくて目立ちます。エノキの葉上にいる幼虫を見て、参加者から「見事な保護色になっている。」と声があがりました。1998年に神奈川県で定着が確認されてから、関東を中心に繁殖して分布を拡大し、ここ数年で浜松市でも普通種として定着してきました。アカボシゴマダラの卵や幼虫、蛹はエノキの葉の保護色となり、野鳥等の天敵から身を守ってきたことが大きいと考えられます。きれいなチョウですが、浜松市を含めた関東を中心に拡散している個体群は中国大陸産の由来と推定され、2018年に環境省より特定外来生物として指定されました。エノキが落葉するころ、幼虫は褐色に変わってエノキの樹皮とそっくりな色となり、枝の分岐点で越冬します。



夏の間、池ではギンヤンマ、ヤブヤンマ、シオカラトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボの成虫が訪れていました。その池の中を子どもたちが水網ですくってみると、落ち葉や泥の中にうごめくマツモムシ、おたまじゃくし、あかむし(ユスリカの幼虫)、やご(トンボの幼虫)が入りました。「泥の中の生き物、ちょっと怖くてさわ

われない。」と始めはたじろいでいた子どもたちですが、「マツモムシ以外は刺したり、かみついたりしないから大丈夫だよ」との声に促され、網からギンヤンマやシオカラトンボ、コシアキトンボのやごを手に取りながらケースに入れていました。参加者はこの池にいろいろな生物が棲んでいると実感していました。中学生の参加者は楽しかったとうれしそうに言いました。ある母親からは「この季節、池の中ではトンボは卵で過ごしていると思っていたので、トンボの幼虫（やご）が見つかるとは考えてもいなかった。」と感想をいただきました。



11月、千葉市で小中学生3人を育てているわが娘と会いました。「私が小学生のとき、佐鳴湖公園のどんぐりの実を磨くと、ぴかぴかになってきれいになって不思議だなと感じたことを思い出した。」と語っていました。子どもの時に体験したことを、30年もたった今も、母親になっても佐鳴湖公園の体験したことを思い出すことがあるのだなあと思いました。

このたびの親子公園探検隊の活動が、自然のおもしろさや不思議さを参加された皆様的心に刻まれていれば幸いです。
(堀内 映)

自然環境委員会 自主研修

オオムラサキと里山探訪

7月14日(日) 於：山梨県長坂町



「オオムラサキ」は、1957年に日本昆虫学会で国蝶に指定された蝶であり、自然環境を測定する指標昆虫の一つです。今年、そのオオムラサキと里山についての理解を深めるため、日本一の生息数とされる山梨県長坂町を訪れました。

まず、日野春駅近くにある「オオムラサキセンター」を見学しました。センター内には雑木林四季のジオラマや生態観察施設、カブトやクワガタふれあいの森、自然公園など、さまざまな展示や体験施設がありました。特に、ビバリウムでは多くの生きたオオムラサキを間近で見ることができ、圧巻の光景でした。

午後には、数か所の里山を巡り、実際に生息しているオオムラサキの姿を観察しました。生きたオオムラサキを目にしながら、里山が育まれてきた歴史や生態系について学ぶことができました。

オオムラサキセンターでは、北杜市ゆかりの写真家、山口進氏が撮影した昆虫写真も特別展示されており、山梨県長坂町でのオオムラサキと里山探訪は、多くの学びや感動をもたらしてくれました。
(袴田正義)



あなたも一緒に

会員募集

問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向

会員数 (2025.1.18現在)

賛助	法人	維持	理事
31	0	3	38
普通	学生	合計	
27	0	99	



※再生紙を使用しています。